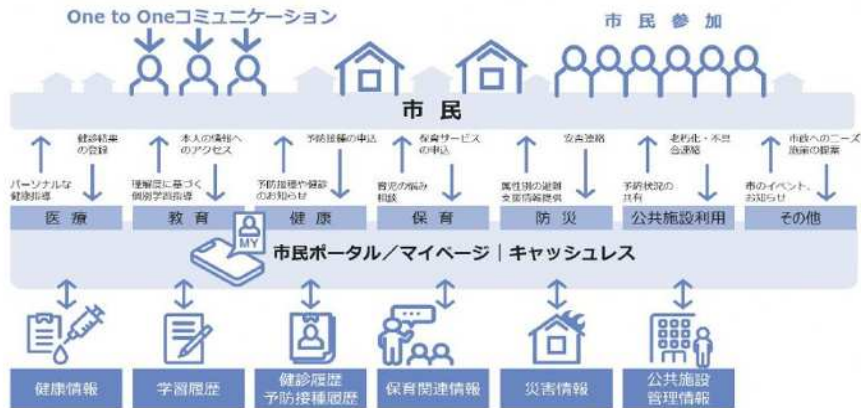


主な事業内容

(1) 市民マイページ（仮称）の構築

オンライン上での住民サービスの窓口となり、市民と市のコミュニケーション窓口となるポータルサイト（市民マイページ（仮称））を構築する。市民マイページ（仮称）では、市民一人ひとりが自分に必要な情報を手軽に入手でき、時間や場所を選ばずに手続きができるなど、市役所の機能を誰もがオンライン上で完結できることを目指す。

【市民マイページ（仮称）の最終的なイメージ】



【令和4年度に行うこと】

- 一人ひとりの属性（本人の年齢、子どもの有無、居住地域など）に合わせた情報の配信機能構築
- チャットボットによる困りごとに応じた手続き案内機能構築
- 市役所への公共施設等の不具合通報機能構築
- 令和5年度以降に必要な市民一人ひとりの情報を保持するID連携基盤の機能検討

【令和4年度の構築イメージ】

本人の居住地域に合わせた情報を案内

子どもの年齢に応じた情報を案内

子どもの有無・年齢や本人の年齢等に応じた手続き等の案内



チャットボットによる手続き等の案内

(2) 酒田リビングラボの実施

市民が参加するワークショップ等により市民目線で地域の生活課題等を洗い出し、デジタル技術を活用した解決アイデアの試作品製作を行うなど、産官学民共創によりデジタルで解決を図ろうとするもの。

(3) 行政手続のオンライン化の推進

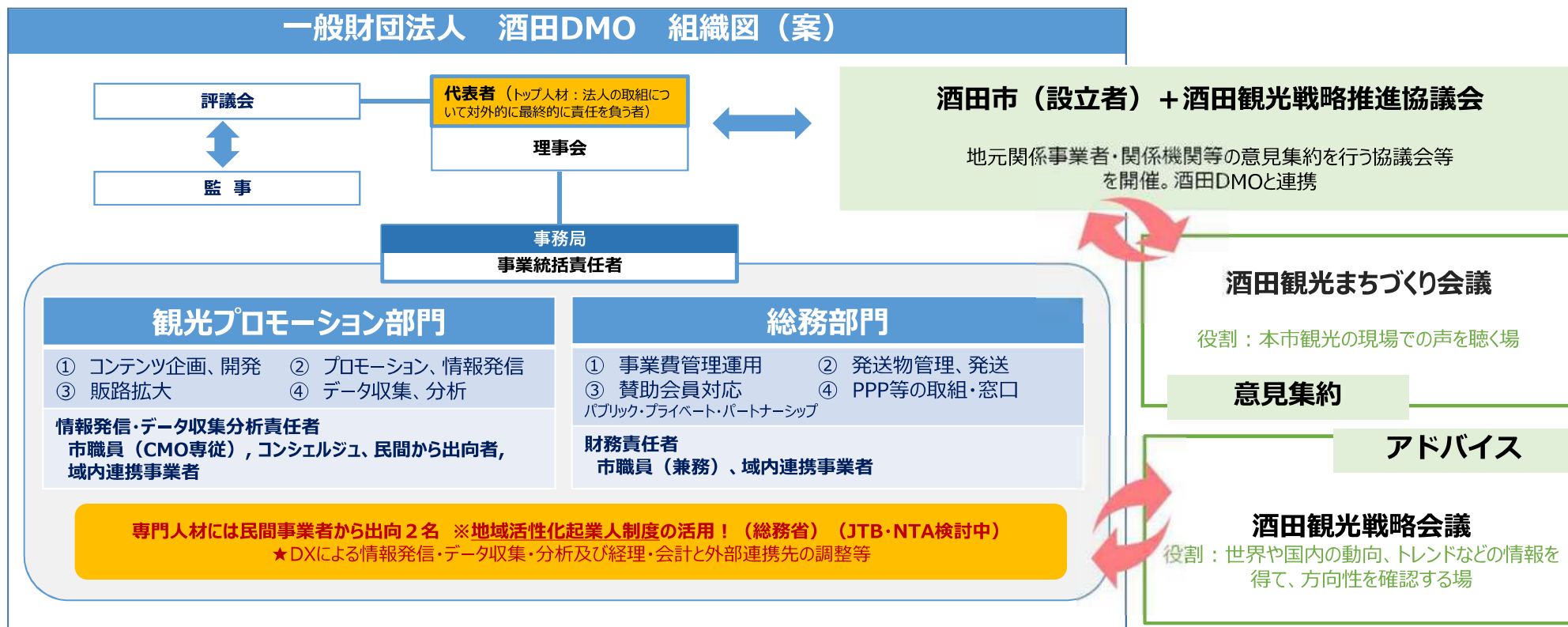
使用料、手数料等のオンライン決済を可能にすることで、更にオンラインで手続可能な手続を増やす。

DMO：Destination Management Organization（ destinations・management・organization）

観光物件、自然、食、芸術・芸能、風習、風俗など当該地域にある観光資源に精通し、地域と協同して観光地域作りを行う法人のこと。

日本版DMO：登録DMO

地域の「稼ぐ力」を引き出すとともに地域への誇りと愛着を醸成する「観光地経営」の視点に立った観光地域づくりの舵取り役として、多様な関係者と協働しながら、**明確なコンセプトに基づいた観光地域づくり**を実現するための戦略を策定するとともに、戦略を着実に実施するための調整機能を備えた法人

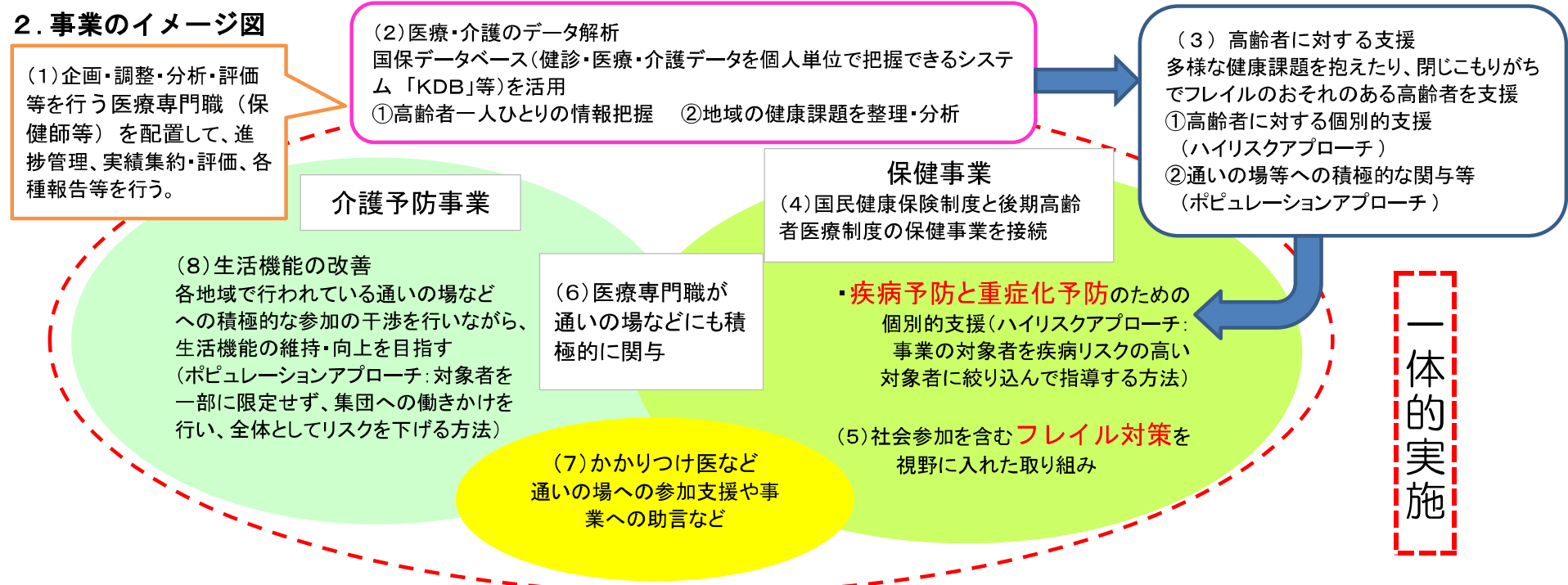


【令和4年度新規】高齢者保健・介護予防一体的実施事業（事業費 369千円）

1. 目的

高齢者の医療の確保に関する法律の規定に基づき、山形県後期高齢者医療広域連合（以下「広域連合」とする）が行う「高齢者保健事業」と、市が実施する国民健康保険法に規定する「高齢者の心身の特性に応じた事業」及び、介護保険法に規定する「地域支援事業」を一体的に実施する。生活習慣病等の重症化予防と生活機能低下の防止を推進することにより、高齢者が自立した生活を送り、健康寿命の延伸、生活の質（QOL）の維持向上を図ることを目指すものである。

2. 事業のイメージ図



3. 具体的な取り組み（予定）

日常生活圏域の2圏域（圏域は未定）を対象として、既存の特定保健指導や通いの場を活用し、より効果的に実施する。

	(1) 高齢者に対する個別的支援（ハイリスクアプローチ）	(2) 通いの場等への積極的な関与等（ポピュレーションアプローチ）
対象者	広域連合「重症化予防訪問指導事業」の基準から、健診結果の数値が高値の者（10人程度）	既存の通いの場を選定（20～30人を想定）
内容	・生活習慣病予防等の重症化予防に関わる個別の健康相談・指導 ・3か月間に3回程度実施	・地域の健康課題に関する、通いの場等での健康教育・健康相談 ・6か月を1クールとして実施
従事者	管理栄養士、歯科衛生士、保健師等	理学療法士、管理栄養士、歯科衛生士、保健師等

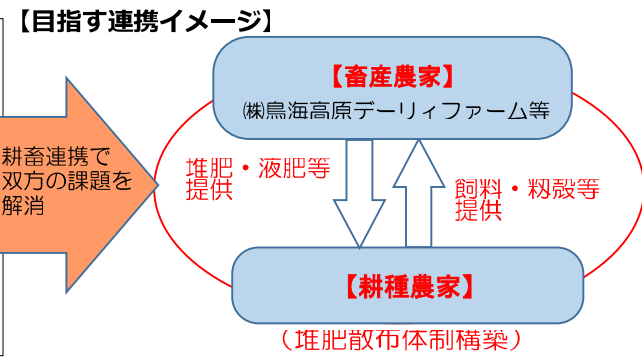
令和4年度耕畜連携推進事業の概要について

農林水産部農政課作成
令和4年2月3日

1 取組みの背景（現状と課題）

畜産農家（㈱ノベルズグループ等）
 ○㈱ノベルズグループが、鳥海高原で大規模酪農・育成牧場を整備しており、令和4年度に本格稼働
 ・当該牧場の飼料としてデントコーンやWCS等を予定。供給体制の構築が急務
 ・家畜排せつ物から堆肥や液肥を生産。供給先となる耕種農家の確保や供給体制の整備が喫緊の課題
 ○飼料は全国的に不足傾向。国内ではトウモロコシなどの家畜飼料が毎年約1千万トン海外輸入
 ○堆肥を受入れる畑作農家が減少しており、畜産農家は堆肥の保管・処理に経費がかさみ規模拡大に影響

耕種農家
 ○人口減少や食の多様化、新型コロナウイルスの影響で米の需要が減少。民間在庫量は増加し、主食用米からの作付け転換など、耕種農家も米価を維持するための需給調整が求められている
 ○堆肥等で消費されてきた籾殻は、近年、産業廃棄物として有償処分されている状況



2 課題を解消していくための具体的対策（令和4年度予算要求概要）

事業費 / 19,613 千円（地方創生推進交付金 / 2,306 千円、農地利用効率化等支援事業交付金 15,000 千円）

①牛尿液肥の水田施用に係る実証実施 予算額 / 772 千円（委託料）
 【財源 / 地方創生推進交付金（1/2）】

目的 / 畜産農家から飼料用作物を栽培する耕種農家へ液肥提供、耕種農家から畜産農家へ飼料供給といった耕畜連携の仕組みを構築

内容 / 牛尿液肥を肥料として水田に施用し、施用方法、分量、臭気などの実証を実施

③堆肥散布組織への活動支援 予算額 / 3,440 千円（補助金）
 【財源 / 地方創生推進交付金（1/2）】

目的 / 散布組織の立ち上げや堆肥散布の仕組みを構築

内容 / 堆肥散布に必要な機械の導入・リース及び人件費等の経費に補助金を交付（補助率 1/2）

②堆肥散布啓発研修会の開催 予算額 / 401 千円（委託料）
 【財源 / 地方創生推進交付金（1/2）】

目的 / カントリー利用組合等への散布組織の立ち上げに係る意識付け、耕種農家への堆肥散布による土づくりの意識醸成

内容 / 堆肥散布に関する啓蒙として研修会を開催

④籾殻の堆肥利用推進に向けた支援 予算額 / 15,000 千円（補助金）
 【財源 / 県補助金（10/10）】

目的 / 籾殻の利活用を推進する体制を構築

内容 / 籾殻の圧縮・梱包機械を導入し、運搬効率化・省力化を図る取組みに補助金を交付（機械 50,000 千円 × 補助率 3/10）

防災対策強化事業（危機管理課）

予算額：63,418千円（内訳 市債：26,400千円、B&G財団防災拠点整備助成金21,349千円、防災ラジオ負担金1,760千円、さかた応援基金3,384千円、一般財源10,525千円）

1. B & G財団による防災拠点整備事業を活用した防災力の向上

B & G財団による防災拠点整備事業の活用により、消防本部敷地への防災備蓄倉庫を建設や、移動式エアコン、大型テント等の大型資機材の配備、学校避難所の入口段差解消の簡易式スロープ、搬送用のターポリン担架など防災資機材の導入を進める。加えて、これらの新たに導入した資機材を活用した、避難所運営に関するワークショップを開催し、人的・物的の両面から地域の防災力の向上を図る。



2. 自助・共助による防災体制の強化

女性の視点に立った防災体制構築及び自主防災体制強化のため、女性防災リーダー育成講座を継続して開催。



3. 情報伝達体制の強化

同報系防災行政無線の改修にあわせて、時間的猶予のない緊急災害情報を複数メディアへ一斉配信できるよう情報配信システムを導入する。（令和4～5年度継続費）あわせて、防災ラジオの頒布拡大を進める。



R4予算資料 GIGAスクール推進事業

予算額 44,722千円

事業概要

- 1. GIGAスクールネットワークの保守 2,425千円
- 2. GIGA端末・回線の維持・修繕・フィルタリング・著作権使用経費等 15,924千円
- 3. 授業や家庭学習に使用する学習ソフトの充実 26,373千円

ドリルソフト

eライブラリ 家庭等で学力にあった個別学習ができる。自動採点機能あり（教員働き方改革）
 11,616千円 現在、情報企画課デジタル変革戦略室(DX室)と連携して、長期的に使用するドリルソフトを実証中

ミライシード eライブラリ スマイルネクスト → 選定ソフト

3つのソフトをR3~4にDX室で実証中 実証結果を受け、R5からの本格導入を検討

授業支援ソフト

Meta Moji 7,497千円 授業中の生徒の様子をリアルタイムで把握し、必要な指導が可能。

ロイロノート 7,260千円 論理的な思考力を育てる。

考えを1枚ずつカードに書き、説明順に配置して矢印で結ぶ

カードや画像を並べ替えてたりして、全体的に考え方やイメージを整理して論理を組み立てていく

学習研究発表会 2021 in 近畿

Meta Moji・ロイロノートの活用法を徹底研修

講師：ソフト開発業者、指導主事 他 対象：全教員

方法：情報教育研修室での直接指導、オンライン研修、オンデマンド動画配信、学校への出前研修

回数：4月 4回程度 5~9月 毎月1回



GOAL

効果的なICT学習環境（個別・集団）の構築
 学習の個別最適化による学力向上
 Society5.0社会に適応した情報活用能力の育成
 非常時におけるオンライン授業等による学びの確保

2024 デジタル教科書導入開始 全国学調Web全面实施

2023 DX実証選定ドリルソフト運用開始 研修・授業等動画データストック活用

2022 授業支援ソフトの充実 教職員研修の充実 個別学習の効率化 働き方改革 個別で遠隔研修が可能 不登校対策検討

2021 GIGAスクールスタート 遠隔学習(端末持ち帰り)スタート 1人1台端末を使った授業開始 自宅学習でのドリルソフトの効果検証

2020 GIGAネットワーク整備 全小中学校をWi-Fi化 ネットワーク安定化・増強 教職員研修、ICT支援的業務 他

担当指導主事1名配置 オンライン授業実証スタート 一部学校で試験的に実施・検証 (基礎学力の定着度の評価)

情報教育推進室整備 情報教育推進室やリモート研修開始

GIGA端末整備 GIGAネットワーク整備 全小中学校をWi-Fi化 ネットワーク安定化・増強 教職員研修、ICT支援的業務 他

子ども1人1台ずつ端末配置

デジタル教材の検証

先進的情報発信

教職員研修スタート GIGA端末・ソフト操作習熟

ロイロノート：論理的思考力を育てる
 MetaMoji：リアルタイムでの個別指導が可能
 端末・ソフトの操作習熟。機能を最大限に活用
 不登校生徒のオンラインでの授業視聴可

YouTube動画を鑑賞し、自分の意見をまとめる学習

「夏休みオンライン登校日」の実施

内容：クラスごとに全児童生徒と教員がオンラインで繋ぎ、学習状況や近況等を報告する。

対象：全小中学校

Google Meetでオンライン授業。モニター上で全生徒の表情を確認しながら授業を進める。三中